

かがやき☆きただより 2018. 正月号

社会福祉法人かがやき神戸 北区事業所発行



〒651-1243

神戸市北区山田町下谷上

西丸山20-30

TEL 582-5544

発行責任者：松本 多仁子

新年あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願いたします

平成の元号としては、平成最後の新年となりました。皆さんご存知だと思いますが、4月30日に天皇陛下が御退位され、翌日の5月1日に皇太子殿下が御即位され、新しい元号に変わること、祝日法という法律で10連休になると言われています。長い休日を楽しみにされている方もおられるでしょう。

去年は地震に豪雨に台風にと自然災害に多く見舞われた1年でした。かがやき神戸もその自然災害の影響を受けて、利用者の安全を第一に考え、施設を何日も閉所せざるを得ない状況になりました。閉所することによって、国からの報酬はゼロ円です。利用者を危険にさらしてまで収入をとすることはできません。当然のことですが、その時職員は施設に待機しています。今の障害者福祉制度では、出席の利用者の数のみが報酬の対象になりますので、警報・大雪・インフルエンザなどの閉所は報酬の対象にはなりません。

しかし、職員は定められた人数を確保しないと事業所開所の許可はおりません。今年の長いゴールデンウィークは、事業所にとっては本当に厳しい状況で複雑な気持ちです。

私が担当しています多機能型つくしんぼでは、職員が38人です。また1日当たりの事業所収入は約40万円です。それが去年のように異常気象や台風などで数日閉所すると約100万円以上の減収になります。大雨でも台風でも、職員は出勤をし、利用者の安否確認等の業務を行っていますが収入は入ってきません。これが日割単価と呼ばれるシステムです。教育の世界などでは、あり得ないシステムです。このように運営も不安定なため職員の賃金を上げることもできず、人材確保も難しく、職員募集をしてもなかなか福祉で働こうという方が少ないのが実態です。

こうした厳しい状況ではありますが、かがやき神戸は皆様の応援のおかげもあり、社会福祉法人を設立し20年目を迎えました。今、法人を上げて次の10年への夢や希望を紡いで将来構想を作っています。どんなに大変な状況でも、障害のある人の暮らしをまもることをあきらめることは出来ません。

今年もきょうされんの国会請願署名・募金運動が始まっております。その運動も今年で42回になります。署名の詳しい請願項目については、別ページにて紹介しております。今の厳しい状況を打破するためにも1筆でも多くの署名を集めたいと思っておりますので、ぜひご協力をお願いいたします。

今年少しでも誰もが住みやすい暮らしやすい社会になるようにと願うばかりです。今年も引き続き社会福祉法人かがやき神戸にご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



(かがやき神戸つくしんぼ事業責任者 武村厚志)

今年も国会請願署名活動が始まっています！

～ きょうされん第42次国会請願署名・募金へ
ご協力を宜しくお願い致します ～



いつも、かがやき神戸へのご支援、ご協力をいただき、本当にありがとうございます。
今年も「きょうされん第42次国会請願署名・募金活動」が始まりました。

私たち、かがやき神戸は、北区・西区の無認可作業所時代から「きょうされん（旧：共同作業所全国連絡会）」に加盟し、青年期、成人期の障害のある人たちの福祉制度充実のため、全国の仲間たちと活動しています。「きょうされん」が41年間、ずっと訴え続け、一つ一つは小さいけれど、確実に制度を積み上げてきています。とはいえ、まだまだ十分な状況ではありません。

人として当たり前の権利を尊重する事を謳った『国連障害者権利条約』がわが国で批准され6年目になりました。

今回の第41次国会請願署名を通して、「障害者権利条約」が社会の隅々まで届くために、ぜひ皆様のご理解とご賛同を宜しくお願い申し上げます。

今回の請願項目（5項目）

① 中央省庁等による障害者雇用水増し問題を究明するとともに、障害のある人の働く場をひろげ、必要な支援等を制度として確立してください。

② 障害年金を安心して生活できる水準まで引き上げるとともに、希望する暮らしを支える制度（グループホームやヘルパー制度など）を拡充してください。

③ 障害のある人が65歳を超えても必要とする制度を自ら選んで使えるよう、介護保険優先原則を廃止してください。



④ 地域活動支援センターが安定した運営をできるよう、国の責任で実態を調査し、制度を拡充してください。

⑤ 事業所の深刻な人手不足の解決に向けて働く職員の労働条件を上げるために報酬制度を抜本的に改善してください。

キッズダンスチーム ビーウィッチ～大森 真弓さん～



今年もたくさんの方のご来場があり、盛り上がった「第22回地域ふれあいまつり」。今回は、そのオープニングを飾ってくださったキッズダンスチーム“ビーウィッチ”の指導者大森真弓さんにお話を伺いました。

Q、ビーウィッチさんの活動について教えてください

「小倉台と緑町でダンス教室を開いています。クラスは3クラス。小学生クラスが2つ、上級生クラスが1つです。生徒は全員で約40名です。入るきっかけは様々ですが、ロコミが多いように感じます。生徒のほとんどが女の子ですが、男の子もいるので、ダンスの選曲は女の子向けにならないようにしています。ビーウィッチの活動は14～15年前からですが、卒業生の中には今でもダンスを続けている子がいます。今は幼稚園児クラスの活動はありませんが、現在の生徒の中には幼稚園の頃から中学3年生まで約10年間通っている子もいます。やっぱり幼稚園からダンスに親しんでいると本人も楽に上達していくような気がします。指導側が『ちょっと難しいかなあ』と思っても、すんなりこなしていく幼稚園児も多いですね。発表会は年に2回。踊るだけではなく、周りに合わせたり人前に出ることも、子供にとって貴重な経験です。以前は人前に出ると泣いてしまう子も多かったのですが、最近では少ないように感じます。」



ビーウィッチでご指導されるまでは、つくしんぼで体操指導のお手伝いもして下さっていた大森さん。地域の子供たちや障がいのあるなかまたちを体操やダンスで笑顔にし続けて下さっています。これからもどうぞ宜しくお願いします！

Q、印象に残っているエピソードはありますか？

「『子供たちは何のためにダンスをしているんだらう』と考えた時期もありました。そんな時、生徒のお母さんに『なぜダンスを習わせているの？』と聞いてみたんです。するとそのお母さんは『思い出作り。あの時楽しかったなあと思ってもらいたい』とのことでした。その言葉に納得したのを覚えています。ダンスを習って将来活躍することを目指しながらも、ダンスを習っている今を嫌な思い出にしてほしくない。ダンスは楽しい！と思ってもらいたいですね。」

Q、毎年地域ふれあいまつりにも参加して下さっています

「はい。地域ふれあいまつりは子供たちはもちろん、保護者からの評価も高く『地域ふれあいまつりはクオリティが高い！』という声をよく聞きます。私自身がまつりの実行委員会に参加した時も、参加者の方々の志の高さや“みんなでまつりを良いものにしたい”という思いにとっても刺激を受けました。今後もいいお祭りになるよう、一緒に盛り上げていけたらと思います。」

連載企画☆

かがやき神戸俳句コーナー

(テーマ：冬の思い出)

クリスマス
過ぎて楽しい
お正月
(だんだん 高田竜二)

クリスマス
まちじゆうにぎやか
たのしそう
(だんだん 尾浦浩二)

秋ふかし
もみじいろづく
冬じたく
(だんだん 福富典子)

※かがやき神戸の利用者・職員から投稿された俳句の中から、選ばれた3作品です！

是非！ぜひ！

応援してください！

会の詳細、ご質問は、
かがやき神戸職員まで、
いつでもお気軽に！

あ・な・た・の・入会♪

「社会福祉法人かがやき神戸を支援する会」への入会のお願い

(年会費 1000円)

振込先：郵便振替 口座記号番号 00930-1-67354

加入者名 社会福祉法人かがやき神戸を支援する会



お待ちしております～♪

☆あなたの一口が障がい者の生活を支えます。『きょうされん』の賛助会員にも、ご協力下さい☆

(年会費 個人3000円 団体6000円)

振込先：郵便振替 口座記号番号 00970-3-250425

加入者名 きょうされん兵庫支部

かがやき神戸を支援する会では、会報誌「かがやき」(年4回)を、

きょうされんでは、会報誌「TOMO」(毎月)を作成し、会員の皆様にお届けしています。

—編集後記—

今年もまたまた寒い冬の到来です。冬は朝起きるのも、着替えるのも、外に出るのも寒くて億劫になりますが、温かい部屋で温かい食べ物を食べる喜びは冬ならではのものだと思います。昔からうどん好きの私ですが、今年うどんのつゆを手作りすることにハマりました。この冬は手作りつゆとあたたかい釜揚げうどんで乗り切る気持ち満々の新年です。(平山)